

第46回保育総合研修会オンライン開催 開催要綱

- 【開催日】令和4年1月26日（水）～28日（金）
【形式】Zoomによるオンライン研修
【定員】300名
【参加費】1名あたり会員10,000円 / 非会員12,000円（資料代・消費税を含む）
【主催】公益社団法人全国私立保育連盟
【協賛】A I G損害保険株式会社・東京海上日動火災保険株式会社・有限会社ゼンポ株式会社トーホ・株式会社サンワールド・一般財団法人総合福祉研究会

全体テーマ・趣旨

新しい時代は子どもから

～子どもの育ちの連続性を見据えた 保育の今、そして未来～

本連盟では、今年度（令和3年度）4月より「公益社団法人全国私立保育連盟」への名称変更と共に、「新しい時代は子どもから」という新たな運動テーマで、保育・子育ての重要性を社会にいかに伝えるかを大きな柱に据えた活動を始めています。

コロナ禍の状況が長引く中、感染症拡大防止の視点だけでなく、一人ひとりの子どもの育ちの保障の視点からも、私たちが何を大切にし、どのような保育を行っていくのか。そして、それらをどのように保護者や地域を含め社会に発信していくのか。この新しい運動においても、様々な実践や取り組みを分かち合い、共に考えたいテーマの一つだと感じています。

また、今年度は「幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会」（中央教育審議会 初等中等教育分科会）が開催され、今後の幼児教育の振興と小学校教育との接続等について活発に議論が重ねられています。ここでも“幼児教育の質に関する認識が社会に共有されているとは言い難い”状況が課題としてあげられ、「社会に開かれた幼児教育カリキュラム（教育課程）」の実現や「幼保小の架け橋プログラム」の開発・実践等が“目指す方向性”としてあげられています。

今回の保育総合研修会では、これらの議論の動向にも注視しながら、どのような状況下にあっても、子どもたちが安心してのびのびと過ごせる保育環境をめざして、最新の科学的知見や先駆的な実践例を参考にしながら、今ある課題、そして、これからの保育・教育のありようについて考えあう機会にしたいと思います。ぜひご参加ください。

第1日目 1月26日（水） 全体会

- ・ 開会挨拶
- ・ 基調報告...全私保連 望月昌幸 常務理事
- ・ 幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会 経過説明...文部科学省(依頼予定)

・ シンポジウム

テーマ：有能な学び手を引き継ぐために互いに育むもの、変わるもの
～保育・教育の連続性と接続を考える～

シンポジスト： 宅明健太氏（大日向小学校 教頭）
川田 学氏（北海道大学大学院 准教授）
吉永安里氏（國學院大学 准教授）
コーディネーター： 田島大輔氏（和洋女子大学 助教）

趣 旨：指針・要領が変わり5年、私たちはそれらを読み取りながら新たな取り組みを試行錯誤しています。小学校以上の学校教育でも乳幼児から育む3本の柱が示された事により、少しずつ変化が起き始めています。この3本の柱は、子どもは生まれた時から資質能力を持っていて、その瞬間から様々な情報や感覚に触れながら有能な学び手として学び続けているということを示唆しています。ならば、その意欲や資質能力を幼保小で潰さずに、将来に向かって子どもを育ててほしいものです。そうした流れの中、文科省ではその両者の接続（小1 プロブレム）に焦点をあてての議論が展開され始めました。接続問題は中学進学時にも起きている問題であり、また段差は少ないとはいえ幼保小の学年進級時にも人・物・事が変わることによって起きることも多く、それを改善するために幼保小がそれぞれに様々な取り組みをしています。しかし一方では、幼保小の接続において、お互いがお互いを知らないために子どもの育ちの連続性が担保されていない現状があることも考えなければなりません。それを繋ぐ架け橋を探し、子どもの最善の利益という視点で一致できることを願って、本シンポジウムではお互いの立場を超えて議論し合いながら、保育者も変わらなければならないことに気づくきっかけになればと願っています。

第2日目 1月27日（木） 分科会（各分科会 定員60名）

第1分科会

テーマ：保育施設の音、照明、換気
～子どもにとって良質な保育空間、職員にとって優良な労働空間を考えて～

運 営：研修部

講 師：川井敬二氏（熊本大学 教授） 田中稲子氏（横浜国立大学 准教授）

趣 旨：国の「保育所等における保育の質の確保・向上に関する検討会」に見られるように、保育の質については、各方面で活発に議論がなされています。また保育職の働き方についても、魅力の向上などが会議の俎上に載ることも多くなりました。一方で子どもたちが長時間過ごす保育施設の建築環境基準については従前の基準がそのまま適用されています。昨年、日本建築学会から「学校施設の音環境保全規準・設計指針」の改定版が刊行されました。小改訂に位置付けられている今回の改定ですが、保育施設を念頭に置いた『特に音響的配慮を要する子どもたちのための設計』として新たな章が設けられるなど、その中身は大変濃いものとなっています。保育施設の音、照明、換気について、良質な保育空間、優良な労働空間の視点から皆さんとともに考えたいと思います。

第2分科会

テーマ：個が尊重されつつ、集団で育ち合う保育とは ～保育の社会的役割とその未来を考える～

運営：研修部

講師：川田 学氏（北海道大学大学院 准教授）

趣旨：少子化、核家族化が進んだ現代の子は親も含め、多様な環境(人、場所、もの)とのつながりが希薄になる傾向にあります。一人の子の多様な面は、人との関係性の中で変わってくると考えると、役回りが限られた人(例えば、対保育者、対親、対同年齢の子ども)としか付き合う経験がないと多様な側面が引き出されにくいということになります。子どもの主体性を「その子どもが周囲とのあいだに結んでいる関係の状態」と定義するならば(川田氏の著書より)多様な環境(人、場所、もの)とのつながりは集団のなかだからこそ保証できるのではないのでしょうか。コロナ禍での悩みもありますが、私たちが譲れない、変わってはいけないと思うところを今だからこそ再確認しましょう。

第3分科会

テーマ：食育再考-食育の基礎を支える人間関係を考える-

～的確なねらいの設定・児童観に基づく食育を計画的・組織的に実施するために～

運営：研修部

講師：野口孝則氏（上越教育大学大学院 教授）

趣旨：本分科会では、これまでに蓄積されてきた食育実践の成果を「人間関係を大切にした食育」に注目して再考していきたいと思えます。具体的な議論内容としては、

- (1) 食を通じた人間関係を大切にす保育（一緒に食べたい人がいる子ども）「児童観に基づく明確な食育のねらいの設定と食育実践」のあり方
 - (2) 食育実践者である「保育士」と「給食担当者」の良好な人間関係について「多職種連携ですすめる食育」「食事提供と食事評価における連携」のあり方
 - (3) (1)・(2)を確実に進めるための食育年間計画・実践・記録・評価の視点の再認識「食育の計画的・組織的実施」のあり方の3点から、毎日の食事提供や食育実践のあり方を学び合ひましょう。
-

第4分科会

テーマ：すべての子どもに求められる制度の充実に向けて

運営：保育制度検討会

講師：長田朋久氏（前全私保連 副会長／墨田区横川さくら保育園 園長）

趣旨：未だ深刻な保育士不足、道半ばの処遇改善、こども庁や幼児教育スタートプラン等、保育を取り巻く諸状況は検討すべき課題が山積しています。これらの課題を視野に入れ、質の高い保育や目指すべき保育について、私たちは考え続けなければなりません。特に加速度的な少子化進行の中、「地域における保育」について今一度根本から考える必要があります。人口減少社会における保育施設の重要性は言を俟ちません。保育施設は病院や学校と同様、地域存続に不可欠な存在です。本分科会は内容を二本立てとし、午前中は保育施設運営に欠かせない「公定価格」についての解説、午後は地域において保育の果たすべき役割を中心に、国の会議を基にした最新の情勢をテーマとするパネルディスカッションを行います。会場の皆さまとこれからの課題について共有し、すべての地域において子どもの最善の利益を守る、よりよい保育、子育て支援の充実に向けて検討していきます。

第5分科会

テーマ：保育者が知っておきたい「保育ソーシャルワーク&データで見る現代の家族」

運営：保育カウンセリング企画部

講師：午前 長谷川俊雄氏（白梅学園大学 教授）

午後 大野祥子氏（白百合女子大学 非常勤講師）

趣旨：貧困家庭や虐待の問題を抱える子ども・保護者を保育施設・保育者が支えることが社会的に求められています。そのために必要となる新たな視点と方法が「保育ソーシャルワーク」です。講義を通して一緒に学びましょう。

後半ではその基盤となる現代社会の家族像について、最新のデータを見ながら現代の家族の姿を確認し、何がおきているかについて考えてみます。この分科会での気づきや知識はきっと子育て支援や家族支援に役立つことと思います。

第3日目 1月28日（金） 記念講演

テーマ：ヒトの脳と心を育むために必要なこと ～科学の視点からコロナ禍の保育を考える～

講師：明和政子氏（京都大学大学院 教授・公益社団法人全国私立保育連盟 理事）

趣旨：そもそもヒトは身体の接触を基本とする社会環境の中で、これまで生きてきました。ソーシャルディスタンス、マスクを装着しての保育、オンラインというバーチャルな世界で様々な体験をするなどの“新しい生活様式”は、ヒトと距離をおきコミュニケーションをとることが余儀なくされています。これらの生活は、子どもたちの脳や心の発達にどのような影響をもたらすのでしょうか。また、このコロナ禍以外でも、人工知能（AI）を生かしたデジタル社会の実現が世界規模で急激に進んでいます。昨年8月に当連盟研修部より、明和政子氏を講師として【新型コロナウイルス感染症が招いた“新たな生活様式”と保育実践（全3回）】をテーマにweb研修を配信しています。配信以降、さらに、私たちが生きる環境が激変している今、あらためてみえてきた“ヒトを育て、ヒトが育つ”ために大切な条件や環境を最新の科学的知見に基づいて学び、これからの保育を考えてゆきたいと思います。

スケジュール

	10:00	12:30	13:30	14:10	15:00	17:00
1/26 (水)		受付	開会	基調報告	文科省・経過説明	シンポジウム
1/27 (木)	10:00~12:00 分科会	休憩			14:00~16:00 分科会	
1/28 (金)	記念講演	閉会				

10:00 12:00

研修会の参加条件について

- ・ インターネットに接続したカメラ・マイクが使用可能なパソコン・タブレットを1人1台で受講できる環境にてご参加をお願いいたします。
- ・ 同施設から複数名参加される場合、1名ずつ個別のメールアドレスの登録をお願いいたします。なお、携帯電話会社のキャリアメールは迷惑メールフィルターにかかり受信できない可能性がありますので、出来るだけキャリアメール以外のご登録をお願いいたします。

申し込み方法について

- (1) 下記の URL より WEB 申込画面にお進みいただき、必要事項を入力してお申し込みください。
名鉄観光サービス株式会社 横浜支店に受付業務を委託しております。

★ 申し込み専用サイト <https://www.mwt-mice.com/events/hoiku-sogo46>

申込み後、ご登録いただきましたメールアドレス宛に申込完了の通知（登録内容の確認・振込口座）が届きますので、参加費のお振り込みを5営業日以内をお願いいたします。
領収書につきましては原則、振込時の利用明細書をもって代わりとさせていただきます。

- (2) 申込み締め切り **令和4年1月7日（金）**
締切以前に定員に達した場合は、受付を終了させていただきます。
- (3) 申込みが完了した方には運営業務を委託しております 名鉄観光サービス株式会社より研修会の約1週間前に参加 URL 等のメール配信を行います。
- (4) 取消の場合であっても参加費は返金いたしません。
※但し、3日間通して同じ方が参加するという条件で代理参加は可能です。

個人情報の取り扱いについて

- ・ 個人情報は慎重に管理し、本研修会の運営・管理の目的に限って使用いたします。
- ・ 研修会の参加者名簿には「氏名」「都道府県・指定都市名」「施設名」「職名」を記載いたします。

事前接続テストについて

- ・ 事前接続テストを実施します。オンライン研修をはじめて受講される方や操作に不安のある方は、必ず事前に接続の確認をお願いいたします。

研修に関する問合せ先

(公社) 全国私立保育連盟 研修部

TEL 03-3865-3880 / Fax 03-3865-3879

E-mail kensyu@zenshihoren.or.jp